

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200106		
法人名	社会福祉法人 野菊の里		
事業所名	グループホームのぎく「かがやきの里」かみみね		
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字前牟田1896番地		
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyosyo_index=true
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年10月12日	外部評価確定日	平成28年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>社会福祉法人 野菊の里の運営する事業所の理念である「かけがえのない人生を、生きがいをもって幸せに生きること」を意識して介護をさせていただいています。 入居者様の状態に合わせた個別ケアを行い、本人、職員、家族とも話し合いを行い、今必要なことや今後予想される状態をアセスメントしそのうえで本人の希望に出来るだけ添えるようにケアプランを作成しています。また、レクリエーション等も声掛けを行い本人の意思で参加をさせていただいています。 医療面では常勤看護師が健康管理を行い、異常の早期発見や早期対応、医療的な処置もおこなっています、また在宅総合診療体制も整えているので医師との連携もおこなっており、緊急対応できるようにしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>認知症ケアの考え方にパーソン・センタード・ケアというのがある。利用者が望んでいることは何か、利用者の視点や立場に立ち、理解し、ペースを合わせながらケアに当たっている姿勢にはその考え方がうかがえる。また、アイデアを出し合い工夫をこらす基本には「利用者にとって」という想いがある。各居室の前にノートが下げられているが、そこには利用者の様子が、時には写真付きで記されている。家族が訪れた時、それを見ればどんな風に生活をしているのかが分かる。家族や親しい人達とを結ぶ日記帳である。法人全体の変化もある中、職員のチームワークの良さは事業所を明るくし、居心地の良い家となっている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「かけがえのない人生をいきがいをもって幸せに生きること」の理念の基に実践を行っている。		理念は事業所独自ではなく、法人全体で統一されたものを掲げている。玄関に掲示され、訪れた人の目にも触れ易い。職員には利用者の意思を尊重し理解しようとする姿勢がある。安易に手を貸すのではなく待つ介護や、声を掛けている様子にも基本である理念が活かされているのがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭り・慰問等の交流はあるが、日常的には行っていない。		隣接する同法人施設と共に開催する夏祭りには地域の人々を招き交流を図っている。現在、自治会には加入しておらず、地区の清掃活動等への参加も果たせてはいない。今後は繋がりを深めるためにも積極的な行動を検討している。また、すぐ横の通学路を通る小学生の見守りや、事業所を訪れ演芸等を披露してくれるボランティアとの交流も模索中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ない。		/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。頂いた意見を真摯に受け止め活かすように努めている。		運営推進会議は概ね30分間である。双方向の意見交換を心掛けてはいるが出席者からは意見等が少ないのが現状である。最近の会議から家族にも出席をお願いし有意義なものとなるよう努めている。外部の方の目が入る貴重な機会を活かすためにも出席者が答えやすい問いかけ方など工夫し、出された意見をサービス向上に繋げようとしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な訪問やケア会議等を利用して、協力体制を密に取れるようにしている。			運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から顔なじみである。問い合わせ等には実直に対応してもらえる関係を築いており、ケアマネジャーも接点が多い。また、介護相談員の受け入れも利用者とサービス提供者、更に行政機関との橋渡し役であることから、サービスの質の向上に活かそうとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止については十分理解している。玄関の施錠を含め身体拘束は行っていない。			事業所の指針があり、法人内での研修も行っている。職員は身体拘束の内容とその弊害を理解している。日中、玄関に施錠はしておらずチャイムやセンサーの設置もない。職員は和やかな中にも配慮を忘れず、安心して暮らせるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待アンケートや不適切ケア報告書の活用等、法人全体で取り組んでいる。				
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や地域ケア会議に参加し学ぶ機会を作っている。				
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分に行い、納得されるまで説明している。質問にも丁寧にわかりやすく答えている。				

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時を利用して、日頃の状態報告を行い良好な関係を築くようにし、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。			家族が訪問された時には何でも話してもらえるような雰囲気作りに努めている。遠方の家族とは電話が主である。雑談や近況報告をしている中で意見や要望が汲み取れることもあり丁寧に対応している。筋力低下を防ぎたいという想いに応えた例では、日常の動作や隣接する同法人施設での器具を使った運動などに反映させている。また、事業所の外に苦情や相談の窓口があることも書類に明記され、入居時に説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員の意見を聞いた後、管理者と相談し、意見が反映できるようにしている。			毎月一回、2時間程度を目途に職員会議を行っている。休みの職員は自由参加である。利用者ごとに担当職員がおり、現状や課題が事前アンケートによって提出されているため時間のロスが少ない。職員は自由に意見を交わし、現場の声は上席へも届きやすい。管理者は会議だけではなく、日頃から職員とコミュニケーションを図ることも大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作り、楽しい職場の雰囲気作りに向けて取り組んでいる。				
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修に参加し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会、上峰地域ケア会議、施設ケアマネネットワーク会議(みやき町包括主催)等、交流の機会を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。				

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴や本人とよく話し合うなど、信頼関係に努め、要望や意向に沿えるよう支援を行っている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見・意向を聞き取り、十分な話し合いやこまめな連絡にて相談しやすい関係作りに努めている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意向・家族の意向を中心として、情報収集・アセスメントし、担当者会議を開催し、対応に努めている。				
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共同生活の場」を基に、見極めの中、過剰な介助にならないように、気をつけ関係を築いている。				
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族負担を軽減し、家族と本人の絆を大切にしながら、家族と共に本人を支えていく関係性を築いている。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会が時々あっている。面会しやすい雰囲気作りに努めている。			入居の際には、それまでの人間関係等を把握するため担当のケアマネジャーからも情報を集めている。電話や手紙の代筆、図書館利用はもとより、お盆やお正月に帰宅することなど、本人の希望があれば家族とも相談しながらできる限りの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や関係性を把握し、孤独感を感じないような交流しやすい場の提供し、利用者同士の関わり合いが多くできるように支援行っている。				
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの問い合わせがあったときは相談に応じている。				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の意向に沿った支援行っている。日頃より担当者が傾聴に努め、毎月カンファレンスを行い、職員全員で本人本位に検討している。		職員は日常的に利用者の傍らで話し相手をしている。何気ない会話の中に想いが聞けることもあり、それらは申し送りノートに記され全員で共有を図っている。想いを表し難い利用者には、日頃の関わりから職員が感じ取り、本人本位に支援している。介護のためではなく生活を支えるためという意識がうかがえる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設ケアマネージャーによって情報収集をし全職員(他職種含む)への情報提供を行い、情報の共有を行っている。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々・個々の生活支援を通じ、心身状態や現状把握を行い、維持増進に向けた支援に取り組んでいる。(担当者会議やカンファレンス時だけでなく、気づきや案を出している)				

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成は規程通り、担当者会議・前回プラン評価を経て作成に当たっているが、更にユニットカンファにおいても、利用者個々の課題とケアについて意見を出し合い、介護計画を作成している。		センター方式シートの活用で「本人にとって」がより明確になり、介護計画へも反映されている。定期的な見直しは3か月ごとだが、変化があればその都度、臨機応変に見直されている。サービス担当者会議に家族の同席はないが、来所の折や電話にて丁寧な説明を行い理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子(24時間)を、時系列でケース記録に記入し、職員間で情報の共有をおこなっている。また、申し送りとして口頭の引き続も行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況変化に合わせて、都度検討し可能な限り、多機能化に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館利用や買い物等、地域資源に対し、職員一緒に行動している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅総合診療(在総診)を利用し、適切な医療の提供を受けられるようにしている。		入居後に協力医への変更を勧めることはなく、馴染みの医師による診療を続けている利用者もいる。その際の受診には家族が付き添い、事業所は日常の様子を記入できる様式を準備し、正確に伝わるよう配慮している。また、法人母体が病院であることは利用者や家族にとって安心材料となっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の日々の状態観察を行い、状態変化があれば、看護師に報告している。必要時は、は、主治医に相談し受診や訪問看護を利用している。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に医療機関とは情報交換を行っている。特に地域医療連携室とは、密に関係づくりを行っている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは入居契約の段階から、年月が経ちがゆえの状態変化(悪化)や終末期のあり方については、意見を伺う等、話し合いを行っている。		これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意はある。指針があり入居時に説明もしている。当初の方針はあっても体調の変化に伴い本人や家族の気持ちもその都度揺れ動く。事業所では何度でも話し合いを重ね、安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての勉強会や訓練参加し、実践力を身に付けている。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練時には、野菊の里(特老)の職員と連携を図り、緊急時早期行動ができるように努めている。		年二回、消防署も立会い昼間帯に実践的な訓練を行っている。夜間は想定のみで、近隣からは区長の参加がある。避難は利用者も一緒に体験し、居室の名前札を外せば「避難済み」の表示が見られるようになっている。職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知している。事業所内に非常食等の備蓄がないのは、隣接する法人施設が福祉避難所の指定を受けているためである。訓練で指摘等があれば記録簿に記し、速やかに改善を図り全員に周知している。また、一次避難場所の確認と、それを家族に伝えておくことは今後の課題としている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての利用者の尊重し、言葉かけや対応をしている。			もし仮に不適切なケアがみられた場合はその場で注意をし、職員が自ら気付くような指導をすることとしている。トイレや入浴の介助には最も配慮がなされ、さりげない支援を行っている。また、個人情報に関する職員の意識は高く、事業所内に掲示するスナップ写真や名前についても入居時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話では、傾聴を中心に開かれた質問で対応している。また、本人が訴えやすい環境づくりにも心がけている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者のペースに合わせ、意向に沿った支援行っている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服・靴下まで利用者を選んでいただいたり、訪問カット時も仕上がり希望を尋ねたり、日頃より、利用者個々への支援に努めている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の一人ひとりの好みやアレルギー・病歴を給食室に情報提供している。			本年4月から、食事は隣接する同法人施設でまとめて調理されるようになった。献立は管理栄養士が作成し栄養価も計られている。炊飯と朝食の味噌汁は事業所で賄うが、毎食の副食は形状にも対応したものが用意されている。時には利用者に食べたいものを尋ね、事業所で調理することもある。希望者にはアルコールも提供している。誕生日はできるだけ当日に祝い、食事のひとつを楽しんでもらえるよう努めている。職員は利用者との会話を楽しみながら同席し、さりげなく介助を行っている。偶然にも利用者から「あなた達も一緒に食べなさい」と声上がり、親身になって寄り添う日頃のケアの表れであろうと思われ、実現に期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	毎日、健康管理日表へ記載し、日々 の食事摂取量・水分摂取量の把握 を行い健康管理に努めている。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	食後は本人の能力に合わせた介助 にて口腔衛生・口腔ケアの支援行っ ている。				
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の 自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターン・習慣（排 泄記録表用いたり）を把握し、オムツ からリハビリパン・リハビリパンからトイレ・ト イレ自立に向けた支援へ努めている 。		完全に自立した利用者もいるが任せ たままではなく、さりげなく見守って いる。排泄記録表により各々のパター ンを把握し、羞恥心にも配慮しながら誘 導・介助を行っている。また、トイレに は背もたれ付きのひじ掛けが設置さ れており、体の安定と立ち座りを助け ることで自立への補助具となってい る。入院時にオムツ使用となった利用 者が退院後にリハビリパンツやトイレ 等へ改善した例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	給食室(管理栄養士)による食事・お やつ提供。施設全体で栄養バランス や栄養価に配慮されている。医 師・看護師の指示の下、排便管理を 行い便秘にならないように努めて いる。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都合で 曜日や時間帯を決めてしまわずに、 個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の健康状態や入浴状況に応 じて、支援行っている。		入浴は概ね週2～3回としているが、 夏場汗をかいた後など必要があれば いつでも可能である。拒む方にはタイ ミングをずらし誘導することで対応し ている。シャンプーやボディソープは 各々のもので、使い慣れたものを事 業所で買い足している。浴室にはリフ ト浴ができる設備があり、安全に浴槽 へ浸かることができ、職員の負担軽 減にもなっている。脱衣場は温度管 理され、衣服の脱ぎ着はできるだけ 本人に任せ見守りながら支援して いる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	休息を促したり、昼夜逆転しない ように、日中の活動支援(レクリ エーション)行ったり、必要時は 医師に相談している。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	職員は薬の名前・効能・効果・ 用法・用量の情報をすぐに閲覧 できる場所に内服一覧表を保管 している。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	施設行事(慰問での踊り・歌・ ピアノ演奏・喫茶・お茶会等) 参加支援、毎日のレクリエーシ ョン 趣味支援 施設リハビリ 参加支援。利用者個々に対する 楽しみごと、気分転換図ってい る。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している	家族や友人へ「電話をかけたい」 「家に帰りたい」「買い物に行 きたい」と要望があれば、対応 し、家族や職員と協力しながら 支援行っている。		買い物などの希望には一緒に出 掛け、自身で支払いを済ませ る利用者もいる。天候と体調を みながら季節の花を見に出掛 けたり、広い敷地内を散歩する こともある。法人には車椅子対 応車両もあり、みんな一緒に 外出も可能である。日常的に 個別の支援もしており、全く 外へ出ないという利用者は いない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している	利用者自身で管理が可能な方は 自己管理をしていただしてい る。買い物時は自ら清算される こともある。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援している	希望があれば、その都度対応 している。				

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分や全居室は毎日掃除支援行い、清潔保持している。フロアー、全居室すべて室温・湿度管理行い、心地よく過ごしていただけるように支援している。(室温・湿度計設置)			L字型になった長い廊下には手摺りがあり、それを伝いながら移動している車椅子利用者もいる。特に意識することなく、日常の動作が筋力維持に役立っている。歩行を妨げるような物は置かず、利用者は安全に日々を過ごしている。リビングは自然光だけでも明るく、日差しはブラインドで調節されている。すぐ横の道路は車の往来が多く、夜間でもその音はあるが利用者から不満は聞こえてこない。年を重ねるごとに利用者が手伝える範囲も狭くなり、掃除は居室も含め職員のみで行っている。浴室やトイレはきれいに掃除され、嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が自由に過ごせるように工夫している。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや思い出のものを持参していただいたり、他(チェストやベットの配置等)本人や家族と相談しながら、本人が心地よく過ごせるよう工夫している。			居室に持ち込める品物は危険物以外に制限はない。家族の写真や書など利用者と一緒に貼ったり、訪れた家族が飾っていくこともある。仏壇を持つ利用者には花や水を用意している。その人らしく居心地よく暮らしてもらえるよう支援している。また、家族の希望があれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は個々の利用者の状態にあった安全対策を施して、自立した生活を営むことができるように工夫している。				

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○		1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○		1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○		1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○		1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○		1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○		1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○		1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない